

平成 23 年度菖蒲池古墳範囲確認調査 現地説明会資料

1. 菖蒲池古墳について

菖蒲池古墳は、橿原市菖蒲町にある、7世紀代の方墳です。菖蒲池古墳は丸山古墳や植山古墳、五条野宮ヶ原1・2号墳などと同じ丘陵上にある古墳の1つで、丘陵の南斜面に造られています。

菖蒲池古墳の調査は、平成21年度に始まり、今年で3年目となります。これまでの2年の調査を通して、古墳の形やおおよその大きさ、古墳の外見などがわかってきました。また、地震により古墳の南西隅が地滑りをおこしていたこともわかりました。これを踏まえて今年度は、古墳の南東隅の調査をおこない、古墳の規模の確定と、墳丘の裾部の状況を明らかにすることを目指しました。

2. これまでの調査の概要

これまでの調査で、菖蒲池古墳について、以下のことが分かっています。

古墳の規模と形状・・・一辺約30mで2段の方墳。

古墳の外見・・・古墳の下段と上段の裾に1段の基底石がめぐる。

また、古墳の前面には礫敷、古墳の上段の裾の平坦面には砂利敷がある。

その他・・・古墳の南西の隅が地震によってずれ落ちている。（いつ頃の地震かは分からない）

3. 平成23年度調査の成果について

本年度の調査では、古墳の下段及び掘割を確認することができましたが、古墳は江戸時代以降の耕作によって大きく破壊されていることがわかりました。古墳の南側の裾にある基底石と、古墳の南側に広がっていた礫敷は全て破壊され、その痕跡も残っていませんでした。しかし古墳の東側では、下段の基底石の一部が残っていました。そのため、古墳の大きさが東西30.6mであることがわかりました。また、古墳の下段と一体で造られた掘割の底には砂利敷が一面に敷かれていました。

さらに、古墳の表面が耕作によって削られていたために、明らかになったこともありました。古墳をつくった時に盛った土の単位を観察することができたのです。

4. まとめ

このように、今年度の調査では、古墳自体の破壊が大きかったものの、古墳の東側の裾や掘割の形状を確認したことで、古墳の東西幅を確定することができました。さらに、古墳の造り方についても成果をあげることができました。これまで「約30m」だった古墳の大きさが確定したことは、菖蒲池古墳を知るうえで非常に大きな成果といえます。

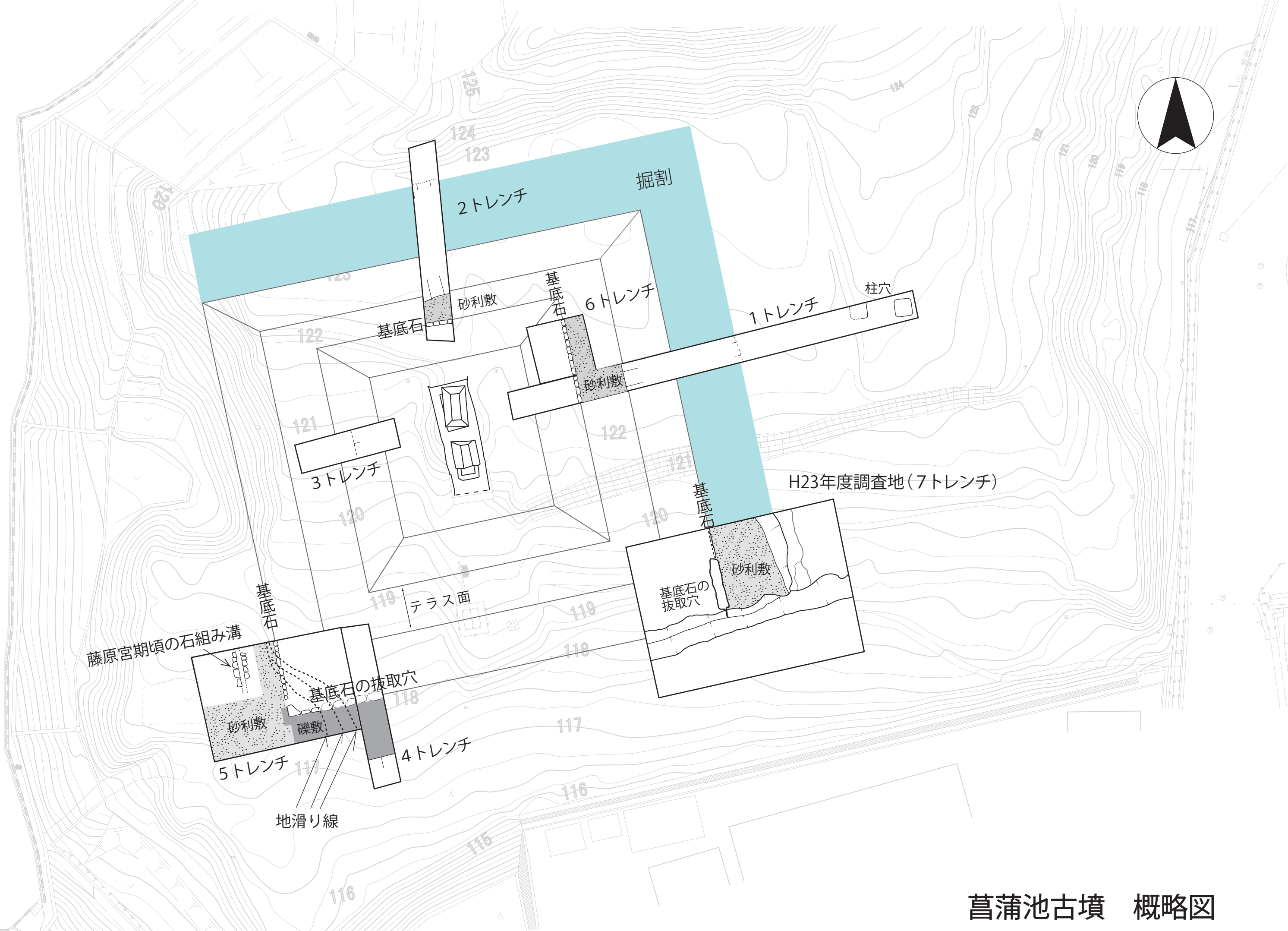
今回の調査では、残念ながら菖蒲池古墳の造られた時期を解明することはできませんでした。このほかにも菖蒲池古墳について分からない点はまだ多いので、今後の調査が期待されます。



菖蒲池古墳南東隅の状況（平成 23 年度調査）



菖蒲池古墳南西隅の状況（平成 22 年度調査）



H23年度調査地(7トレンチ)

菖蒲池古墳 概略図